

菊川町

地形概況

菊川・牛瀨川・小笠川にそう低地には自然堤防や後背湿地が発達する。北部は掛川丘陵、東部は牧の原台地と丘陵、西部は小笠山丘陵が位置し、開析がすすんだ。菊川中流部や牛瀨川ぞいには河岸段丘が発達し、倉沢一帯は地すべり地である。

地質概況

砂岩・泥岩の互層からなる相良層群を基盤とする牧の原台地の表層には牧の礫層、西部では長者原礫層がのる。西に行くにしたがい掛川層群も基盤を構成して周辺の丘陵を形成する。地すべり地も多い。菊川にそう沖積地は泥・シルトよりなり低湿地として広くひろがる。

気象概況

年平均気温は 14.2°C(倉沢)と周辺地域より 1°C程度低く、冬の季節風が連続して吹く日が多い。年平均降水量は 2,376mm(倉沢)とほぼ県平均値であり、4月から8月にかけて全降水量の約半分に達する。年平均風速は 2.1m/秒と風が強い地域である。

災害事例 地震

- 1944年12月7日(昭和19年)東南海地震 M=7.9
県中・西部で被害が大きかった。当地でも河城で全壊1戸、六郷で全壊2戸、半壊13戸、加茂で全壊14戸、半壊20戸、内田で全壊39戸、半壊28戸、横地で全壊125戸、半壊48戸の被害があった。堀之内などは全半壊はなかった。また六郷では道路に地割れができて、地下水があふれたり、井戸の水があふれ出したりした。各地の震度は上平川・横地で7、三軒家で6、段平尾・加茂・白岩段・半済・牧の原上・六郷で5~6、杉森・森・堀之内・潮海寺・河城・和田・下倉沢・富田で5である。
- 1854年12月23日(安政元年)安政東海地震 M=8.4
県全域で被害が大きかった。当地では横地土橋あたり総潰れとなり、大頭竜山で山崩れを生じた。また本所では13戸全壊し、9戸が半壊した。また溜池3箇所が痛んだ。神尾では全壊10戸である。その他沢水加で全半壊が多かったが、三門では潰れ1戸であった。倉沢・切山谷・富田・吉沢・和田などはほとんど被害がなかった。各地の震度は本所村で7、土橋・神尾で6~7、沢水加で6、三門村で5~6、倉沢・切山谷・富田・吉沢・和田で5である。

災害事例 台風

- 1982年9月12日(昭和57年)台風18号
県中部を中心に全県下に被害あり、菊川町沢水加では山崩れが起きた。死者1人、負傷者2人、全壊13戸、半壊3戸、床上浸水408戸、床下浸水1,037戸の被害がでた。
- 1910年8月8日(明治43年)
全県下特に中・西部で被害が大きかった。河城での8日の日雨量334mm、9日374mmの集中豪雨で7~10日、4日間の雨量は954mmに達した。そのため大洪水となり、

菊川・小笠川の堤防が決壊し浸水家屋 118 戸の被害があった

- 1858 年 7 月 22 日（安政 5 年）午年の大水
菊川流域で人家流失などの被害が大きかった。
- 1698 年 8 月 17 日（元禄 11 年）
稀にみる大洪水で、川筋の家ことごとくが押し流され、多くの人や馬が溺死し、人々は山の上へ逃げた。

災害事例 旱魃

- 1926（大正 15 年）
県下全般に旱魃で、農作物に大被害を受けた。菊川町河城の 8 月の雨量は 24mm しかなく、平年より 360mm も少なかった。
- 1852（嘉永 5 年）
日照りが続き凶作となった。このため安政大地震の前年（1853 年）、三沢村では池を作っているが、この池の堤防が安政の地震で切れ、倒れた家が水びたしになるという皮肉な災害を受けている。